

目次

一 詩經

1

關雎

2

桃夭

3

漢廣

4

標有梅

5

野有死麕

6

靜女

7

柏舟

二 楚辭

1

漁父

2

懷沙

三 古詩

目次

8

凱風

9

伯兮

10

兔爰

11

女曰雞鳴

12

碩鼠

13

陟岵

14

鹿鳴

〔參考〕

屈原傳(史記)

(漢)

司馬遷……二六

1	大風歌	(漢)	高祖……三
2	秋風辭	(漢)	武帝……三
3	詩四首 錄二	(漢)	蘇武……三
	一、結髮爲三夫妻		
	二、黃鶴一遠別		
4	與蘇武詩三首	(漢)	李陵……四
	一、良時不三再至		
	二、嘉會難三再遇		
	三、攜三手上三河梁		
5	別歌	(漢)	李陵……五
6	古詩十九首	(漢)	無名氏……五
	一、行行重行行		
	二、迢迢牽牛星		
	三、冉冉孤生竹		
	四、凛凛歲云暮		
	五、去者日以疎		
7	悲愁歌	(漢)	烏孫公主……四
8	怨詩	(漢)	王昭君……四
9	怨歌行	(漢)	班婕妤……四
10	白頭吟	(漢)	卓文君……四
11	薤露歌	(漢)	無名氏……四
12	蒿里曲	(漢)	無名氏……四
13	十五從軍征	(漢)	無名氏……四
14	飲馬長城窟行	(漢)	無名氏……四
15	孤兒行	(漢)	無名氏……四
16	上山采蘼蕪	(漢)	無名氏……四
17	陌上桑	(漢)	無名氏……四

18	羽林郎	(漢)	辛延年……五
19	爲焦仲卿妻作并序	(漢)	無名氏……五
20	短歌行	(魏)	武帝……五
21	苦寒行	(魏)	武帝……五
22	短歌行	(魏)	文帝……五
23	白馬篇	(魏)	曹植……六
24	七哀詩		曹植……六
25	七步詩		曹植……六
26	歸園田居	(晉)	陶淵明……六
	一、少無適俗韻		
	二、種豆南山下		
	三、久去山澤游		
27	飲酒并序		陶淵明……六
	一、栖栖失羣鳥		
	二、結廬在人境		
	三、秋菊有佳色		
28	乞食		陶淵明……六
29	止酒		陶淵明……六
30	桃花源詩并記		陶淵明……六
31	形影 神并序		陶淵明……六
	一、形贈影		
	二、影答形		
	三、神釋		
32	挽歌詩		陶淵明……六
	一、有生必有死		
	二、在昔無酒飲		
	三、荒草何茫茫		
33	始作鎮軍參軍經曲阿作		陶淵明……七
34	癸卯歲始春懷古田舍		陶淵明……七



35 責対談子 古
36 擬詩 古
37 雜詩
38 詠荆軻

〔参考〕 入志、山崎龍一

五柳先生傳

一、少淵、鮑、荀、屈

陶淵明……七
陶淵明……七
陶淵明……七
陶淵明……七

陶淵明……七

歸去來兮辭并序 古田奇
陶淵明傳 (梁) 蕭統……六
效陶潛體一詩 (唐) 白居易……六
訪陶公舊宅 白居易……六
あとがき……………八

30 國語由理
32 子史裁
34 子史裁
33 白雲齋
35 讀書日
31 讀書日
30 讀書日
19 讀書日
18 讀書日



陶淵明



〔周南〕 召南の詩と共に周王朝創業期の歌とされ、周南は周公の治下、召南は召公の治下の歌といわれる。南については、徳化が北の陝西から南に及んだからというが、また南方系の楽曲というとの説もある。

〔閔雎〕 首句の二字をとって題としている。なお、四句ずつ五章にするものもある。

〔閔〕 雌雄和らぎ鳴く声の形容。
 〔雎鳩〕 みさご。
 〔窈窕〕 たおやか。
 〔好逑〕 よいつれあい。逑は匹。
 〔荇菜〕 水草。あざざ。
 〔流之〕 流は求める。また水の流れに順って取ること。
 〔思服〕 思うこと。服はおもう。懐。
 〔友〕 友としいつくしむ。親しみ愛する意。

〔芼〕 えらぶ。
 〔風之始〕 風は国風。
 〔風天下〕 風は風化。
 〔進賢〕 賢は賢女。
 〔窈窕〕 窈窕の才女。
 〔賢才〕 賢才の女。
 〔配〕 配偶者。

〔集伝〕 宋の朱熹の詩集伝。詩序をとり去り、新解をくだしている。

〔聚訟〕 互に是非を争って定まらないこと。
 〔崔述〕 清の人。号は東壁。

〔逆〕 むかえる。
 〔方玉潤〕 清の人。
 〔風〕 国風。
 〔頌体〕 風・雅・頌の頌。
 〔初昏〕 新婚。
 〔序説〕 詩序の説。
 〔陝以東〕 陝より東は周公が主どり、西は召公が主どった。詩では周南、召南という。

〔采〕 採。
 〔何足与言詩〕 「与」はともに。なお、今日では、詩序によらない解が一般に行われている。
 〔詩序解〕 民国二十一年。開明書店刊。
 〔志之所之〕 人心の発露したもの。
 〔形〕 あらわれる。
 〔永歌〕 永く声をひいて歌う。

1 關 雎

(周 南)

關關雎鳩	在河之洲	窈窕淑女	君子好逑
參差荇菜	左右流之	窈窕淑女	寤寐求之
求之不得	寤寐思服	悠哉悠哉	輾轉反側
參差荇菜	左右采之	窈窕淑女	琴瑟友之
參差荇菜	左右芼之	窈窕淑女	鐘鼓樂之

〔參考〕

○ 關雎、后妃之徳也。風之始也。所以風天下而正夫婦也。故用之郷人焉、用之邦國。風、風也。教也。風以動之、教以化之。(詩序)

關雎、樂得淑女以配君子。憂在進賢、不淫其色、哀窈窕、思賢才、而無傷善心焉。是關雎之義也。(同上)

○ 周之文王、生有聖徳。又得聖女如氏、以爲之配。宮中

之人、於其始至、見其有幽閒貞靜之徳。故作是詩。(集傳)

○ 關雎一篇、古今聚訟、大抵多以爲求賢妃配君子、諷刺王室、然終覺詩意有未達者。崔述讀風偶識謂、關雎一篇、言夫婦也。乃君子自求良配、而他人代寫其哀樂之情耳。不牽涉后妃一語、真千古卓識、可謂能逆詩人之志者。方玉潤詩經原始云、風者、皆采自民間者、若言君妃、則以頌體爲宜。此詩蓋周邑之詠初昏者、亦足以攻序說焉。此詩爲陝以東之風、殆一初昏時抒情之俚謠而率直醇朴、自不可及。周公爲東伯、遂乃采其風耳。若附會后妃、不免學究之見。何足與言詩。(陳延傑著、詩序解)

○ 詩者志之所之也。在心爲志、發言爲詩。情動於中、而形於言、言之不足、故嗟歎之。嗟歎之不足、故永歌之。永歌之不足、不知手之舞之、足之蹈之也。情發於聲、